

ノーベル賞授賞式



発行所
山形新聞社
山形市旅籠町2-5-12
電話 代表023 (622) 5271
Copyright (c) 2012
Yamagata Shimbun

2012年
12月11日
〈火曜日〉

電子
速報版

購読申し込み
(9-17時)

0120-81-8040

やまがた
ニュースオンライン
yamagata-np.jp

携帯・スマホ
yamagata-np.jp
/mobile/



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

山中教授に最高栄誉

iPS細胞、開発から6年



授賞式を終えてノーベル賞のメダルを見せる山中伸弥京都大教授
11月10日午後、ストックホルムのコンサートホール（共同）

【ストックホルム共同】2012年のノーベル賞授賞式が10日午後（日本時間11日未明）、スウェーデン・ストックホルムのコンサートホールであり、医学生理学賞の山中伸弥京都大教授（50）が、カール16世グスタフ国王からメダルと賞状を授与され、最高の榮譽を受けた。

日本人の医学生理学賞受賞は、1987年の利根川進・米マサチューセツ工科大教授（73）以来25年ぶり2人目で、日本人受賞者は計19人になった。山中教授はことしの受賞者の中で最年少。体のさまざまな組織の細胞

になる能力を持つ「人多能性幹細胞（iPS細胞）」を開発し、開発から6年のスピード受賞だ。授賞理由は「成熟した細胞を初期化し、多能性を持たせられることの発見」とされた。

山中教授は10日午前
iPS細胞は、再生医療や新薬開発への応用が期待されるほか、生命科学の研究に幅広く使われている。

「授賞式はマラソンに例えると折り返し地点。これまで基礎研究がメインだったが、臨床応用というゴールが遠くに見えてきている。マラソンもそうだが後半の方が大変なので、頑張りたい」と述べ、式典に臨んだ。

えんび服の山中教授は、共同受賞の英国のジョン・ガードン博士（79）や各賞の受賞者と壇上に。業績の紹介を受け、ステージ中央で、国王からメダルと賞状を授与され握手、響き渡るファンファーレでたたえられた。客席からは妻知佳さん（50）ら家族が見守った。